

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社名古屋三越
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中区栄 3－5－1
工場等の名称	名古屋三越栄店
工場等の所在地	名古屋市中区栄 3－5－1
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	百貨店
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和5年9月21日 ～ 令和5年12月20日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 名古屋三越栄店 1階 ライオン口案内所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-252-1111		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当社における事業活動が環境に与える影響を評価・認識し、適切な環境保全活動の推進に努めます。環境にやさしい企業として、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減、リサイクルの推進に積極的に取り組み環境保全に努めます。

1、省エネルギー推進（電力、ガス）

省エネキャンペーンの推進や、設備の効率的な運用によるエネルギーの削減
中長期的な設備更新による省エネ機器の導入。

2、廃棄物削減、リサイクル推進

現場レベルでのごみの分別の徹底と排出量の抑制。

食品生ごみのリサイクル推進を中心に、廃棄物全体のリサイクル推進。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

- ・建物設備管理委託先と総務担当者によるミーティング(週1回)
- ・従業員に向けた定期的な節電の啓蒙活動
- ・空調、照明の稼働時間の定期的な見直し
- ・計画的なLED化による省エネの実現
- ・ハイブリッド車への入れ替えによるガソリン使用料の削減

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,136	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	7,136	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの排出量	0.00002602		0.00002524		0.00002562					
削減率（対 基準年度）			3.0	%	1.5	%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

施設管理者による効率的な運用および稼働時間の定期的な見直し、LED化の推進により計画通りに進捗。
--

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
電力省エネ	省エネ教育の徹底。 節電シールの貼り付け。 閉店後の速やかな退出と消灯励行。 トイレ、事務所など不滞在時消灯励行。 冷蔵庫、冷凍庫の整理整頓による開閉時間短縮。	前年比データを 活用し削減目標 を定める毎月増 減理由の検証を 行う。	啓蒙活動により意識づけされ実現 できている。
ガス省エネ	厨房ガス機器の、つけっぱなし防止。 高効率燃焼、適正火加減の確認。	フロア責任者により各厨房の巡回を行い着けっぱなしゼロ目標とする	啓蒙活動により意識づけされ実現 できている。
冷暖房省エネ	各空調機の風量、設定温度の見直し。 熱源及び空調機の季節ごとのダンパー開度の調整。設定温度、運転時間の変更。	前年比データを 活用し削減目標 を定める 店内 巡回による室温 測定の徹底	施設管理者による定期的な運用見 直しにより実施できている。
水資源節約	節水シールの貼り付け。 ポスターの掲示。 トイレ設備の巡回点検の徹底。	フロア責任者により行い出しっぱなし巡回の徹底	啓蒙活動および施設管理者による 点検の徹底により実現できている。
廃棄物削減	分別廃棄推進に向けた教育訓練実施。 食品生ゴミの100%計量の実施。 食品生ゴミ水切り廃棄の徹底。 グリストラップの日常清掃の徹底。	前年比データを 活用し削減目標 を定める	啓蒙活動により意識づけできている。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 1 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・ペーパーレス推進による紙資源の使用削減 ・エコバッグの販売促進およびお声掛けの実施による使用量削減 ・用度発注の見直しによる使用量減

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

残留者の徹底チェックによる照明点灯時間の削減。 社用車使用状況、空気圧の適正化、エコドライブの教宣。 分別徹底による資源化の推進
--